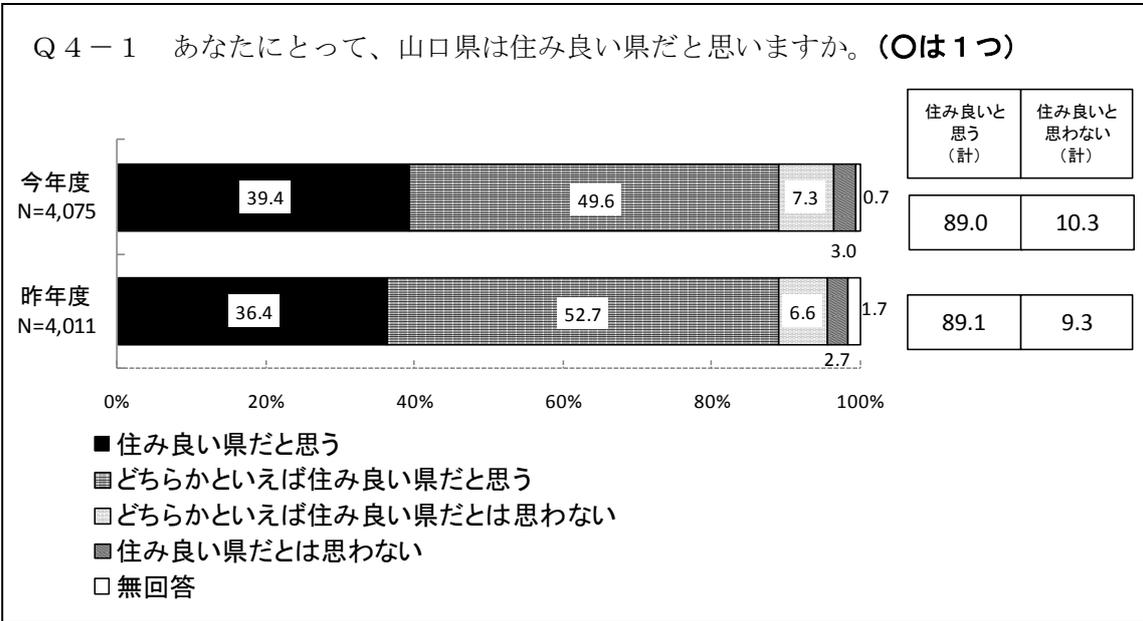


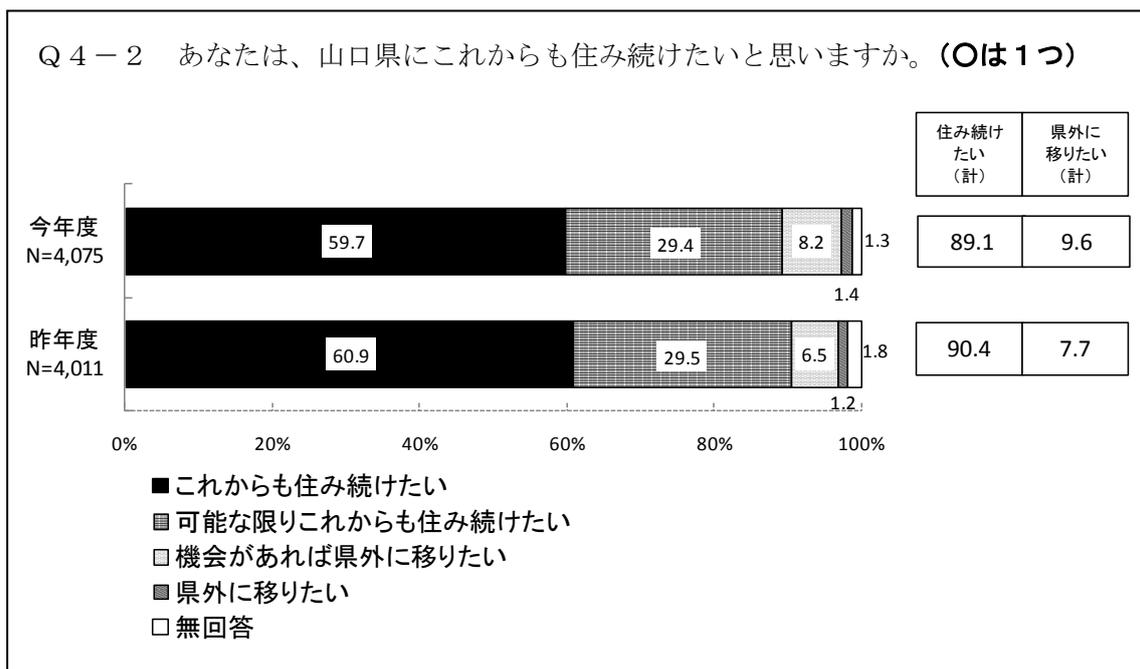
4. 住み良さ日本一の元気県づくり

4-1. 山口県の住み良さ



住み良さについて、「住み良い県だと思う」と「どちらかといえば住み良い県だと思う」を合わせた『住み良いと思う(計)』(89.0%)が「どちらかといえば住み良い県だとは思わない」と「住み良い県だとは思わない」を合わせた『住み良いと思わない(計)』(10.3%)を大きく上回っている。昨年度と比較しても、大きな差は見られない。

4-2. 今後の山口県への居留意向

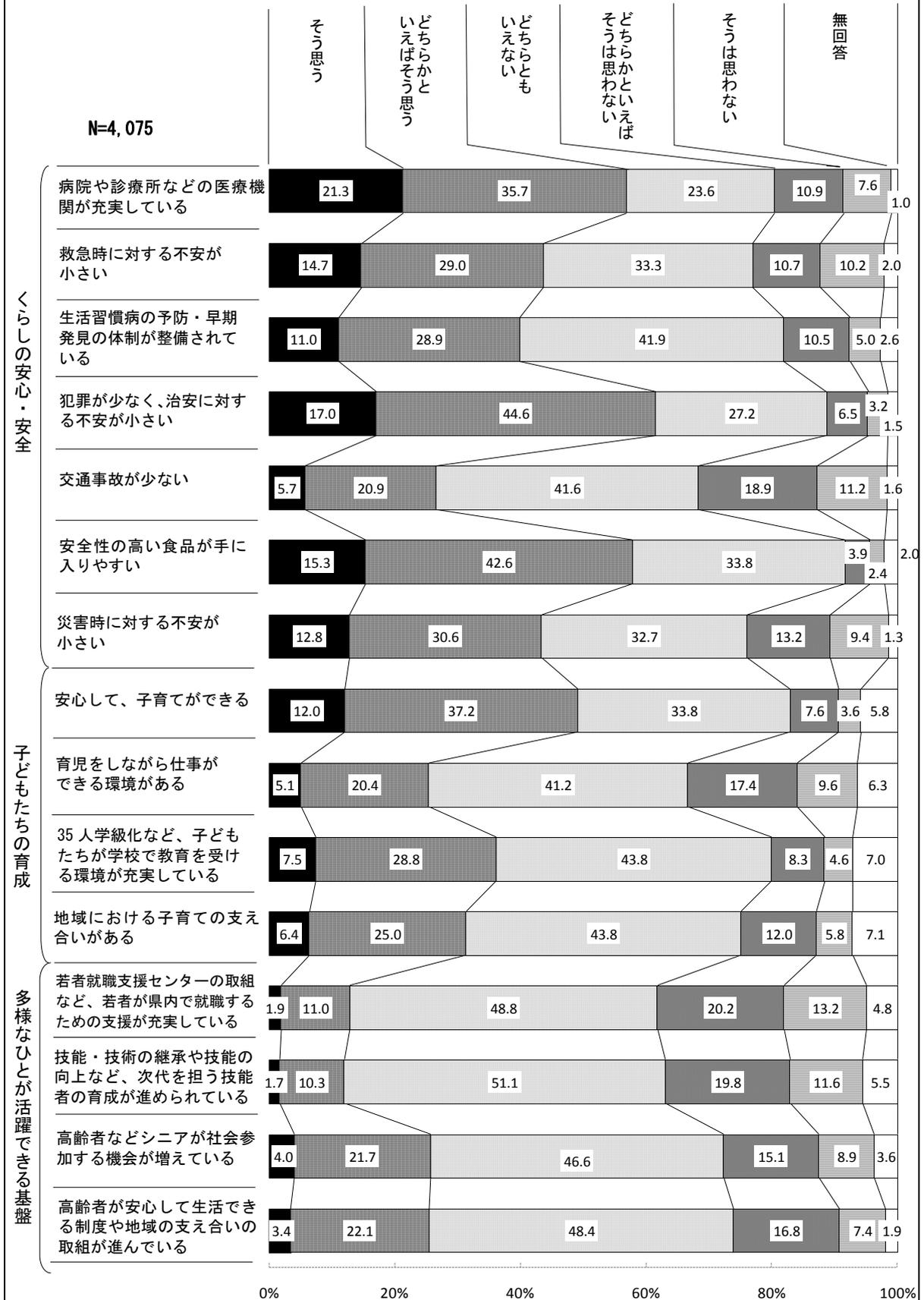


今後の山口県への居留意向について、「これからも住み続けたい」が59.7%と最も高くなっている。「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が89.1%と8割を超えている。また、「機会があれば県外に移りたい」と「県外に移りたい」を合わせた『県外に移りたい (計)』は9.6%と1割に満たない。昨年度と比較すると、『住み続けたい (計)』は1.3ポイント低下、『県外に移りたい (計)』は1.9ポイント上昇している。

4-3. 住み良さの実感

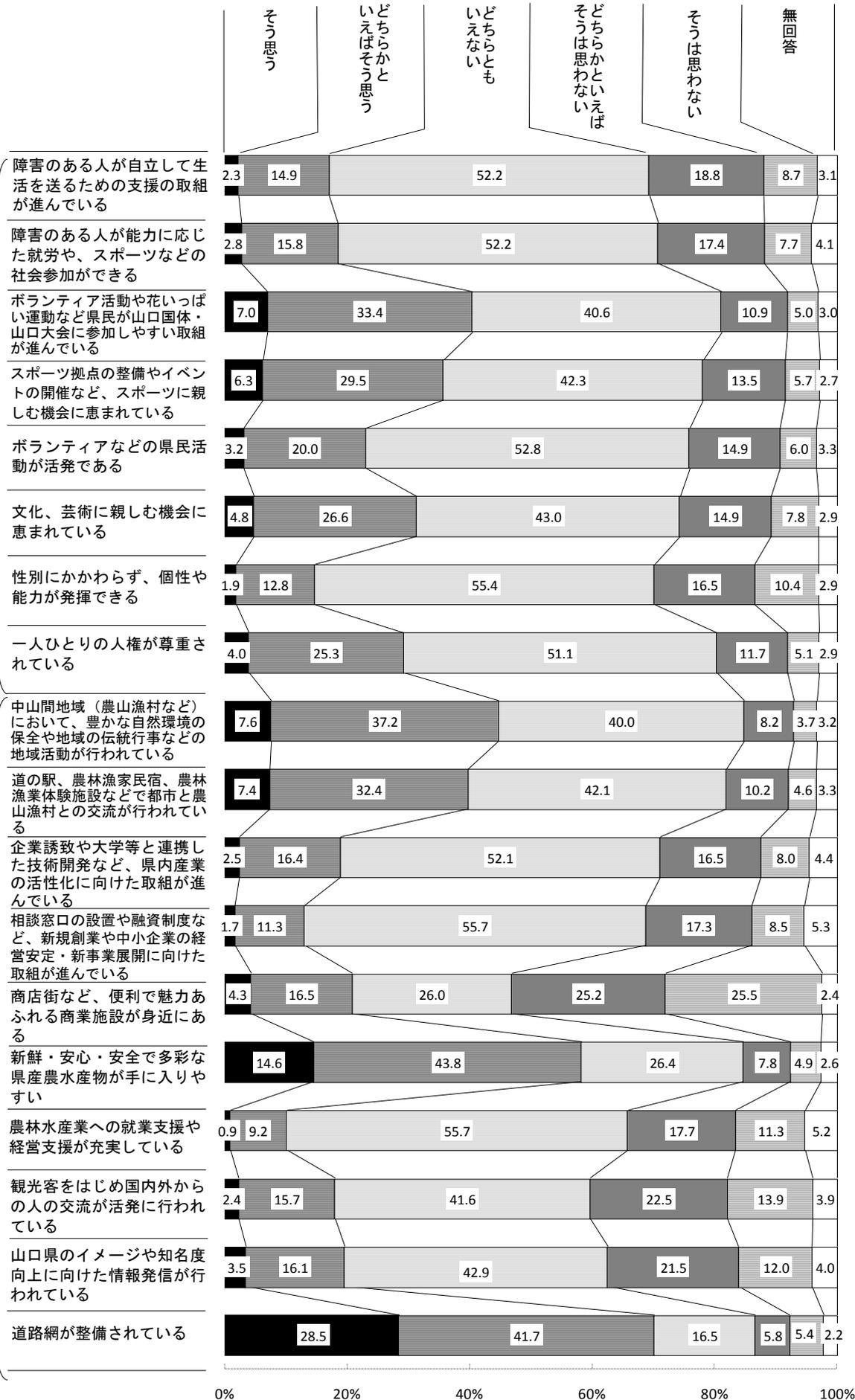
Q 4-3 次の各項目におけるあなたの実感についておたずねします。

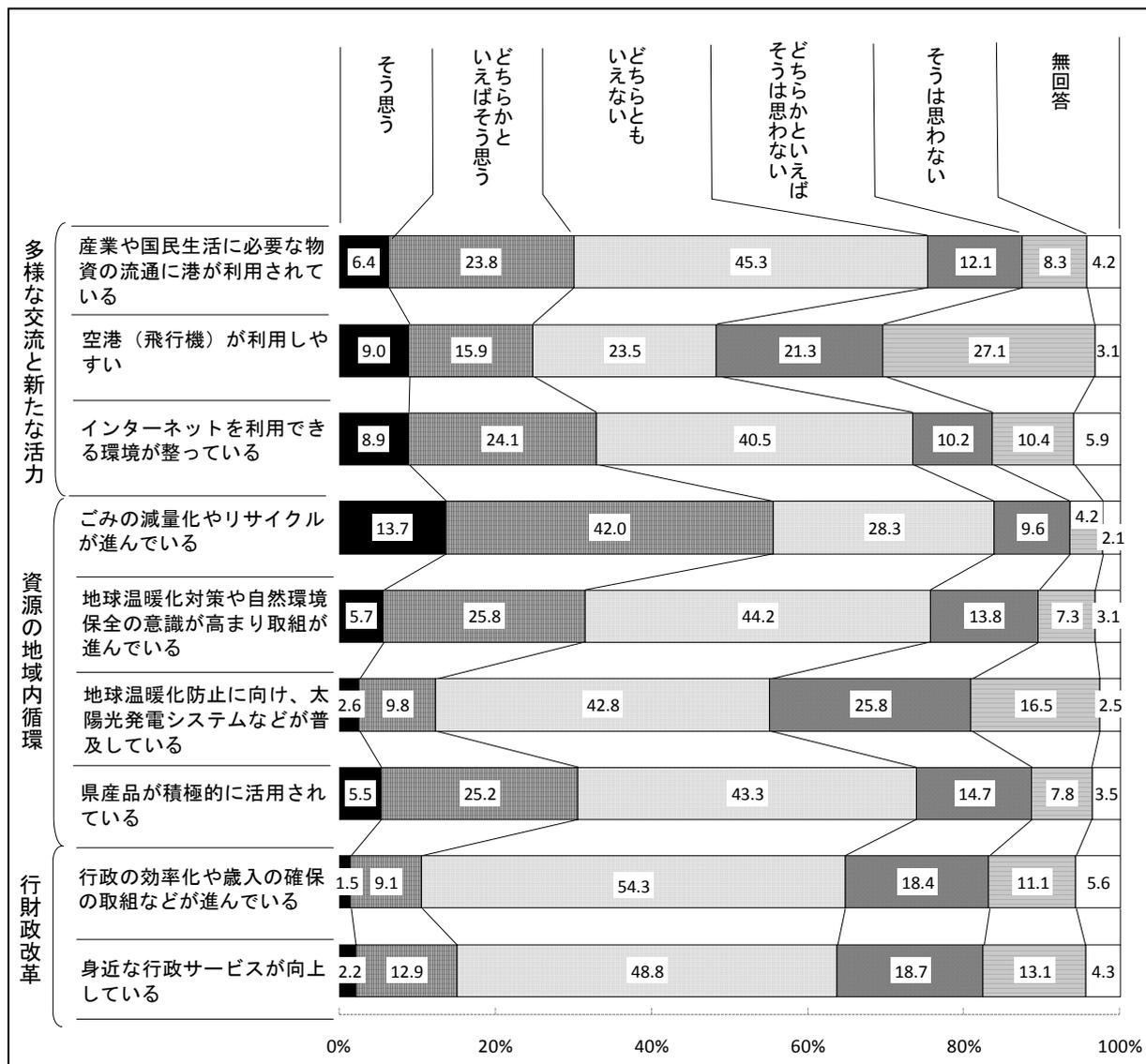
いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)



多様なひとが活躍できる基盤

多様な交流と新たな活力





住み良さの実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』の割合は、「道路網が整備されている」が70.2%と最も高く、次いで「犯罪が少なく、治安に対する不安が小さい」（61.6%）、「新鮮・安心・安全で多彩な県産農水産物が手に入りやすい」（58.4%）、「安全性の高い食品が手に入りやすい」（57.9%）、「病院や診療所などの医療機関が充実している」（57.0%）、「ごみの減量化やリサイクルが進んでいる」（55.7%）で高くなっている。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『そうは思わない（計）』の割合は、「商店街など、便利で魅力あふれる商業施設が身近にある」（50.7%）、「空港（飛行機）が利用しやすい」（48.4%）で高くなっている。

<住み良さの実感上位10項目>

【思う】の割合が多いもの (「思う」「どちらかといえば思う」の合計)		
項目	分野	割合
道路網が整備されている	多様な交流と新たな活力	70.2%
犯罪が少なく、治安に対する不安が小さい	くらしの安心・安全	61.6%
新鮮・安心・安全で多彩な県産農水産物が手に入りやすい	多様な交流と新たな活力	58.4%
安全性の高い食品が手に入りやすい	くらしの安心・安全	57.9%
病院や診療所などの医療機関が充実している	くらしの安心・安全	57.0%
ごみの減量化やリサイクルが進んでいる	資源の地域内循環	55.7%
安心して、子育てができる	子どもたちの育成	49.2%
中山間地域(農山漁村など)において、豊かな自然環境の保全や地域の伝統行事などの地域活動が行われている	多様な交流と新たな活力	44.8%
救急時に対する不安が小さい	くらしの安心・安全	43.7%
災害時に対する不安が小さい	くらしの安心・安全	43.4%

【思わない】の割合が多いもの (「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」の合計)		
項目	分野	割合
商店街など、便利で魅力あふれる商業施設が身近にある	多様な交流と新たな活力	50.7%
空港(飛行機)が利用しやすい	多様な交流と新たな活力	48.4%
地球温暖化防止に向け、太陽光発電システムなどが普及している	資源の地域内循環	42.3%
観光客をはじめ国内外からの人の交流が活発に行われている	多様な交流と新たな活力	36.4%
山口県のイメージや知名度向上に向けた情報発信が行われている	多様な交流と新たな活力	33.5%
若者就職支援センターの取組など、若者が県内で就職するための支援が充実している	多様なひとが活躍できる基盤	33.4%
身近な行政サービスが向上している	行財政改革	31.8%
技能・技術の継承や技能の向上など、次代を担う技能者の育成が進められている	多様なひとが活躍できる基盤	31.4%
交通事故が少ない	くらしの安心・安全	30.1%
行政の効率化や歳入の確保の取組などが進んでいる	行財政改革	29.5%